



京都国立博物館だより

2018年10・11・12月号

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2018 October to December, vol.200

200

号記念

特別展

京のかたな

匠のわざと雅のこころ

新春特集展示

亥づくし

— 干支を愛でる —

特集展示

美麗を極める

中国陶磁

特集展示

京の冬景色



特別展 京のかたな

匠のわざと雅のこころ

平成30年9月29日(土)～11月25日(日)
平成知新館

国宝 太刀 銘二条(名物三日月宗近 東京国立博物館(通期展示))

国宝 短刀 銘吉光(名物後藤藤四郎 徳川美術館(通期展示))

国宝 太刀 銘則国 京都国立博物館(通期展示)

重要文化財
阿国歌舞伎図屏風(部分)
京都国立博物館
(通期展示)



重要文化財 後三年合戦絵巻 下巻(部分) 東京国立博物館
(9月29日～11月11日展示: 場面替あり)



重要文化財 真如堂縁起 下巻(部分) 京都・真正極楽寺(通期展示: 場面替あり)

王城の地・京都では、平安時代から現代に至るまで多くの刀工が工房を構え、多くの名刀を生み出してきました。

本展では、現存する京都山城系鍛冶の国宝指定作品十七件と、著名刀工の代表作を中心に展示し、平安時代から平成にいたる山城鍛冶の技術系譜と、刀剣文化に与えた影響を探ります。展示は時系列に沿いながら、次の八つの章で構成されます。

一 京のかたなの誕生(平安時代後期)

日本刀様式の刀剣がいつ発生したのか厳密には特定できませんが、武士の台頭と密接な関係を持っているのは間違いありません。京都においては山城鍛冶の祖たる三条宗近とその一派が登場し、以後八〇〇年の永きに渡る山城鍛冶の物語が始まりました。

二 後鳥羽天皇と御番鍛冶(鎌倉時代前期)

皇位継承の象徴である神器を欠いたまま在位した後鳥羽天皇。その存在は、失われた宝剣を求めて自らが作刀する天皇とその御召鍛冶という伝説を生み、「君御手づから焼せ給けり」とされる刀身に菊の御紋を刻んだ菊御作が造られるきっかけになりました。

三 粟田口派と吉光(鎌倉時代中期～中期)

十三世紀初頭頃から京都・粟田口周辺に居住した刀工群を粟田口派と呼び、中でも後鳥羽上皇の御番鍛冶と伝える国友・国安を含む久国・国清・有国・国綱の六人がつと知られています。この章では粟田口派の代表工全員の作品と吉光の傑作を紹介し、その抜きん出た技量と作品の放つ品格を堪能していただきます。

四 京のかたなの隆盛(鎌倉時代中期～後期)

粟田口派以外にこの時代を代表するみやこの鍛冶集団である来派は、作品の完成度の高さのみならず、京文化や技術の伝達・派生といった面で地方へ影響を与えました。この章では山城鍛冶の隆盛と彼らが地方に与えた影響を紹介します。

五 京のかたなの苦難(南北朝～室町時代中期)

応仁の乱、続く天文法華の乱で壊滅的な打撃を受けた洛中でも、山城鍛冶は火を絶やすことなく作刀を続け、伝統を守り抜きました。備前や美濃といった他国の刀剣に押されて衰退を余儀なくされつつも苦境の時代を生き抜いた山城鍛冶の作品を紹介します。

六 京のかたなの復興(室町時代後期～桃山時代)

群雄割拠の時代を迎え、戦国大名らがこぞって上洛を目指しだすと、種々の職人たちもみやこへ移住しはじめます。この章では、堀川派、三品派などの新たな山城鍛冶と、慶長期の不世出の名人・埋忠明寿を紹介します。

七 京のかたなの展開(桃山時代～江戸時代前期)

京のみやこに新たに興った埋忠派・堀川派・三品派の作風は一世を風靡しました。その作品を求める声は高く、京都には多くの門人が集い、その技法は各地へと広がっていきました。堀川派の末弟国貞、国助の二人や、三品派の吉道の一派が摂津国に移住したことで、新刀の完成形である大阪新刀へとつながりました。

八 京のかたなと人びと(江戸時代中期～現代)

この章では京都古社寺に奉納された名刀を展示し、京の人々が抱いていた刀剣への畏敬の念を紹介します。また、展覧会の締めくくりとして、最後の山城鍛冶にして人間国宝・隅谷正肇の作品をご紹介します。

京都国立博物館では初めてとなる本格的に刀剣を紹介する特別展となります。これまで関心がなかった方にも、奥深い刀剣の世界を知っていただくきっかけとなれば幸いです。(末兼俊彦)

重要文化財 太刀 菊御作 京都国立博物館(通期展示)

重要文化財 刀 銘山城国西陣住人埋忠明寿(花押) 慶長三年八月日他江不可渡之 京都国立博物館(通期展示)

重要文化財 太刀 銘粟田口一竿子忠綱 影同作 宝永六年八月吉日 京都国立博物館(通期展示)

長刀 銘平安城住三条長吉作 大永二年六月三日
切付銘去年日蓮衆退治之時分補仁任候於曹留申奉寄附感神院江所也 願主江石塔寺之麓住鍛冶左衛門太郎助長 敬白 天文八丁西暦六月七日 長刀鋒保存会(通期展示)

祇園祭礼図屏風 右隻(部分) 京都国立博物館
(9月29日～10月28日展示)



亥づくし

— 干支を愛でる —

平成30年12月18日(火)〜平成31年1月27日(日)
平成知新館〈1F-5〉



白釉猪 京都国立博物館

平成二十八年(二〇一六)の申年より続く新春特集展示「干支を愛でる」。平成三十一年は亥年ということで「亥づくし」、猪にまつわる名品を展示いたします。

当館では明治三十四年(一九〇二)より同四十二年(一九一〇)まで、干支にちなんだ展示が行われていました。明治三十四年は丑年、同四十三年は戌年。丑↓寅↓卯↓辰↓巳↓午↓未↓申↓酉↓戌。そうです。実は亥(猪)をテーマとする展示は、この度が初めてとなります。亥年生まれの皆様、お待ちしております。

近年、京都市内にも出没し、何かとお騒がせな猪。皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか?周囲の状況を考えずに、一つの物事に向かって突き進むさまを猪の突進になぞらえる「猪突猛進」のように、短絡的で荒々しいと思われがちな猪ですが、本当は神経質で警戒心の強い動物です。ただ、同じく向こう見ずな者を表す「猪武者」という言葉は『平家物語』にもみられ、この様なイメージ(誤解?)が鎌倉時代から続いていることが知られます。

一方で『徒然草』には、「おそろしき猪のししも、「ふす猪の床」と言へば、やさしくなりぬ」と述べられています。恐ろしいイメージの猪ですが、反面、草むらでおとなしく眠る姿は、安らぎの象徴とされていたことが伺えます。

この他にも、狩猟の対象、摩利支天の眷属、子孫繁栄の象徴など、いろいろな側面を有する猪。本展示もいろいろな猪を集めました。

擬人化された十二支が和歌を競う、ユーモラスな「十二類絵巻」。そこに登場する猪、猪手冠者鼻堅も、「しなが鳥 ぶす猪の床の 秋かぜに 雲もさはらぬ 月をみるかな」と「ぶす猪の床」を詠み込んでいます。「籠地秋草」猪文詩絵硯箱」に描かれる秋草の中の猪も「臥す猪」のモチーフでしょうか。また、臥した猪を安らぎの象徴とする考え方が、中国にもあったのかは不明ですが、唐時代(八世紀)の「白釉猪」は穏やかに臥しています。

江戸俳諧の巨匠、与謝蕪村は「獸の名を三つ入れて詠め」と言われ、「猪の 狸寝入りや 鹿の声」の句を残しています

すが、猿画の名手として名高い森狙仙「雪中三獸図襖」は、猪・鹿・猿、それぞれの毛の質感を描き分け、襖の中に三獸を見事に同居させる名品です。

京博初の亥づくし。是非、お越しいただき、お気に入りの猪を見つけていただければ幸いです。
(上杉智英)



雪中三獸図襖 森狙仙筆 京都・廣誠院



重要文化財 十二類絵巻 上巻(部分)

美麗を極める中国陶磁

平成30年12月18日(火)〜平成31年2月3日(日)
平成知新館〈1F-2・3〉



三彩合子



白地紅被玻璃花卉文小壺
大清乾隆年製銘



澱青釉鉢



粉彩松鹿図瓶 大清乾隆年製銘



青花黄彩雲龍文盤
大清康熙年製銘

平成二十四年に、清朝陶磁を中心とした中国美術の蒐集家である松井宏次氏より、陶磁59件、考古13件、彫刻2件の計74件を一括でご寄贈いただきました。今回は、その受贈を記念し、ご寄贈いただいた作品を一堂にご紹介します。

ご寄贈いただいた作品の中核をなすのは、中国・清時代に作られた陶磁器(清朝陶磁)です。清朝陶磁は、景德鎮に官窯が置かれ、高度な技巧を凝らした磁器が生み出される一方で、名声高い陶磁器の模倣が行われました。宋時代の官窯青磁も模倣され、青磁色の単色釉がかけられるだけでなく、胎土や貫入に至るまで、忠実に模倣を行ったものがつくられています。松井コレクションは、洗練された青磁をはじめとした単色釉の名品のほか、赤、緑、黒、褐、藍、黄など多彩な色絵具を用い、繊細な筆致で絵画的な絵付けを行ったり、文人趣味を反映した画題を描いたりした青花磁器や五彩磁器、粉彩を施したものなど、長年培われた鑑識眼によって清朝陶磁の技法を概観できるまとまりとなっています。

清朝陶磁以外にも中国陶磁の蒐集をされており、漢時代、唐時代から宋、明時代までの碗、皿、瓶や壺、枕や俑にいたるまで、コレクションは多岐に渡るものとなっています。また、松井氏は中国美術全般にも興味を持って、造形的な美しさのみられるガラス製品、彫像彫刻や青銅器、金属工芸なども蒐集されています。

今回の展覧会では、松井コレクションの全容をご紹介するとともに、清朝陶磁をはじめとした中国陶磁の豊かさや色彩の美しさを感じていただきたいと思えます。また、中国陶磁だけでなく、合わせて展示する青銅器や金属工芸、彫刻などもご覧いただき、中国美術における造形美について、触れていただく機会になればと思います。
(降矢哲男)

※「美麗を極める中国陶磁」に出陳の作品はすべて京都国立博物館蔵です。



特集展示

京の冬景色

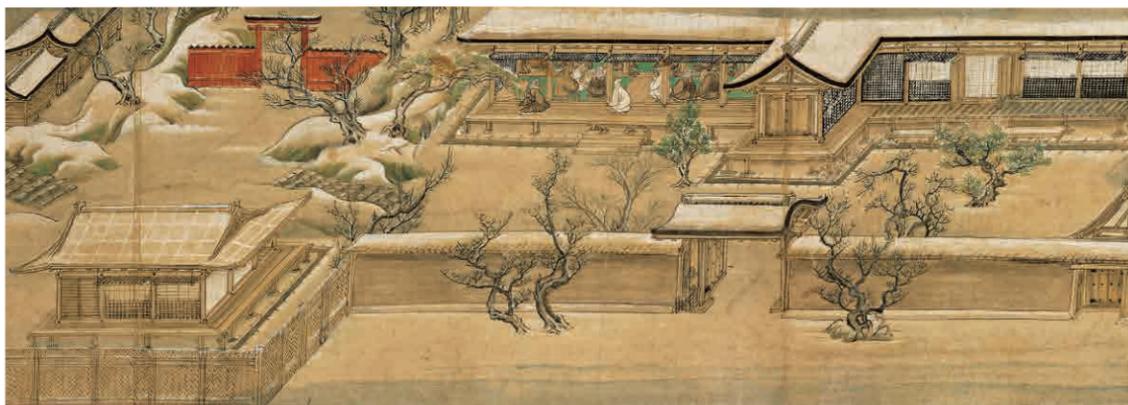
平成30年12月18日(火)〜平成31年1月27日(日)
平成知新館〈2F-5〉

四季に恵まれた日本の自然は、その季節ごとにさまざまな表情を見せてくれます。桜、新緑、紅葉など、季節をいろどる豊かな色彩が、見慣れたはずの景色に新鮮な趣を添えるさまはまことに目に楽しいものです。特に、春と秋は気候の穏やかさも手伝って観光のハイシーズン。ここ数年は年間5000万人を超える観光客が訪れる京都でも、多くの人出で賑わうのは圧倒的に春と秋です。

底冷えのする冬の京都には、しかしこの季節ならではの景色があります。毎年のようにテレビに映し出される、雪の積もった金閣もそのひとつ。雪化粧という言葉があるように、真白な雪は美しい景色をさらにも美しく磨き上げてくれます。そんな魅力的な京都の冬景色が描かれた作品をご覧ください。だこうという特集展示です。

浄土宗の開祖・法然の生涯を描いた国宝「法然上人絵伝」巻第四十二の巻末には、二尊院の境内が五紙にわたって展開しています。諸堂宇に降り積もる雪が、法然の遺骨が納められたこの寺の静謐さを演出して見事です。また、松村景文ら円山四条派の画家たちの合作である「都名所図巻」には、桂川と宇治川が合流する淀の雪景色が描かれています。いまは失われた淀城の在りし日の姿を偲ぶことができるのも、絵画ならではの醍醐味と言えましょう。

このほか、嵐山や宇治の冬景色を描いた作品も展示予定です。一部屋だけの特集展示ですが、冬の京都名所を巡る小旅行をお楽しみください。
(福士雄也)



国宝 法然上人絵伝 巻四十二(部分) 京都・知恩院



博物館だより版・虎ブログ 文化財を守るりん！

トラりん：こんにちりん！ トラりんだりん！

ボクのサイトで掲載している「虎ブログ」も、記念すべき京博だより200号記念特集の一部を任せてもらったよ！わーい☆わーい☆パチパチパチバ……ん？大変だりん！これってもしかして…

ものすごいプレッシャー！！

せっかくだから、みんなが知らない京博を紹介したいりん！なにか特別なネタはないかなあ…特別なネタ…特別なネタ…（ぶつぶつぶつ）

降幡研究員：トラりんが悩みごとなんて珍しいね。今日のおやつは何にしようか考えているの？



トラりん：保存科学室長の降幡研究員☆いいところに来てくれたりん！！「おともだちが普段なかなか聞けない展示に関する特別ですごー面白のお話」、なにかない？！

降幡研究員：ずいぶんハードルの高い話を探しているね。これから展示室に行くんだけど、トラりんもいっしょに行かない？なにか、新しい発見があるかもしれないよ。

トラりん：展示室に到着だりん♪ところで降幡研究員は、いつもどんなおしごとを…スコーン☆うわああああ！！なにになにないに？！！ボク、いまなにか固いものを蹴ってしまったりん！！

降幡研究員：これだね。

トラりん：なに？？この四角

降幡研究員：虫のモニタリングをするものだよ。一定期間、これを決まった場所に置くことで、博物館の環境が正常かを調査する「バロメーター」になってくれるんだ。

トラりん：ばろめーたー？？

降幡研究員：この中には粘着質のシートが入っていて、虫が通ると捕まえる仕組みだよ。虫がたくさんいる場所には水分や餌となる汚れ、食ベカスがあるかもしれないよね。そのままにしていると、ほかの虫も集まってくるし、もし作品に付いてしまったり、文化財も被害を受けてしまったら大変なことになってしまう。だから、清掃スタッフと連携して、文化財を守るためにクリーンな環境づくりに取り組んでいるんだ。

トラりん：つまり、この四角の中の様子がいつもと違ったら、その場所で異常事態が起こっているかもしれないということだね？

蹴ってしまったらごめりん…置いている場所が変わったり、なくなってしまうたら困るよね？

降幡研究員：文化財を守るための調査だから、見かけたら触らずそっとしておいてもらえるとうれしいな。ちなみに、展示されているもの以外に収蔵庫で管理している文化財もあるから、博物館全体ではこれを約400個設置しているよ。

それにバックヤードでは、出入口の扉前に粘着シートを設置することで、靴についた泥や虫の侵入を防いでいるよ。

トラりん：そうか、知らないうちに外から虫さんを連れてきてしまうかもしれないもんね！

ボク、お散歩から帰ったら、これからもっと足をふきふきするりん！

たしかに裏話ではあるけど、こんな大事なことをいままで知らなかったなんて…

降幡研究員：トラりん、落ち込まないで！これから気をつけてくれたら大丈夫だよ。

実は、文化財を守るために重要なことがほかにもあるんだけど、何か分かるかな？

トラりん：えーっと、えーっと…何だろう？

降幡研究員：温度が高いと物は劣化しやすいし、あたたかくて湿度が高いとカビが生えるでしょ。そのカビを食べに虫が集まると…

トラりん：文化財が危なああああいつ！！！一体どうしたらいいのおおお？？（泣）

降幡研究員：文化財を守るためには、温度や湿度がすごく重要なんだ。だからそれぞれ決まった設定があるよ。

トラりん：じつは「展示室、寒っ！」って思うこともあったけど、これはボクたちにあわせているのではなく文化財を守るための温度だったんだね。大切な作品だからこそ、それを楽しむためのお約束や環境にも意味があることを教えてもらって、まさに新しい発見だりん♪

降幡研究員：いま私たちが文化財を楽しむことができるのは、むかしのひとが守り・伝えてくれたおかげなんだ。私たちもその想いを受け継いで、未来のおともだちへ伝えていかなくてはいけないよね。展示を楽しんでもらう中で、観覧マナーに協力してくれたり、大切に想う気持ちを持ってくれたら、それは文化財を守る大きな力になるよ。

トラりん：降幡研究員！これからも力を合わせて、大切な文化財をずーっと先までつないでいくりん！！

二人：オー☆



特別展「池大雅 天衣無縫の旅の画家」によせて

多摩美術大学教授 木下京子

今春に開催された特別展「池大雅 天衣無縫の旅の画家」は、大雅の初期から晩年に至るまでの約一六〇件の作品が出陳された圧巻の大同回顧展だった。池大雅は多作な画家として知られるが、本展で紹介された作品は、特に賛者と画賛および書簡の内容を精査した上で慎重に採択されていた。大雅が萬福寺襖絵を描く際に参考にした伝張瑞図筆「秋景山水図」や大雅が実見したとされる趙珣筆「芦雁図」、董其昌筆「三行書」、さらには大雅自身が所持していた李珣筆「腕底煙霞帖」といった中国書画も並ぶ。池野秋平が池大雅になるべく、内面形成や制作姿勢に直接影響を及ぼした人々や作品を同時に目にする事ができたその意義は大きい。

展示室に入るとまず池大雅の肖像画を観ることが出来る。大雅の弟子の福原五岳と三熊思孝が描く大雅像は大きく異なる。三熊思孝（花顛）は『近世畸人伝』の挿図を担当したことで有名だが、畸人伝の内容に加え、そこにある「唱和しながら三弦を弾く大雅と琴を奏でる妻の玉瀾の姿」は、後世における二人の人物像を決定づけた。しかし五岳の描く大雅は思孝のような底抜けの明るさはなく、求道者のようである。片膝を立ててその上に両手を乗せ、顔の頬もこけてやつれているが、眼光は鋭い。本展企画者の福士雄也氏は、大雅の座り方や苦悩に満ちた表情が道釈主題に通有し、師の聖性を付与しようとする意識が五岳にあったことを指摘している。さらに現存する唯一の自画像である「三上孝軒・池大雅対話図」がその隣に飾られたことで、これら肖像画から大雅その人の多面性を垣間見ることができた。

本展は旅を主要テーマに据えている。董其昌は『画禅室隨筆』の中で、「書画六法、一氣韻生動、氣韻不可学、此生而知之、自有天授、然亦有学得處、読万卷書、行万里路、胸中脱去塵濁、自然丘壑内嘗、

立成鄂鄂、随手写画、皆為山水伝神矣（氣韻は天から授かり生まれながらに知っているもので、学ぶことはできない。しかし万巻の書物を読み、万里の道を歩き、胸中の塵やよごれを取り除けば、自然に山々が生まれ、たちどころに輪郭ができ、手の赴くままに描けば、すべて山水の神髓を写したものになる）」と説いている。これは大雅にとつて金言となったはずだ。大雅には「已行千里道、未読万卷書」という印があるが、少しでも董其昌に近づき、真の文人になりたいという意思の表れなのだろう。篆刻にも通じていた大雅には数多くの印があり、中でも「三岳道者」印は頻繁に使用された。款にも「三岳」や「三岳書（画）」、「三岳道者」などと記されていることが多い。「三嶽」の表記も多々見受けられる。三岳とは白山、立山、富士山の三霊山を指しているが、大雅は吉野や熊野にも出かけており、これらの山々は修験道との関わりが深い。最初に実景を描いた「箕山瀑布図」も山岳霊場として有名である。

大雅にとって山を旅することは悟りや靈験を得ることであり、実践を通して胸中の塵やよごれを浄化し、山水の神髓を写すことを希求した。異国の仙境も自国の真景も大雅にとっては同じ山水を描くことであり、その神髓まで表現することに意味があったのだ。大雅にはまた「胸中の逸気」なるものもあり、例えば那智の滝を描いている途中で真景が見たくなり突然那智に旅立った逸話など、数々の大雅の突発的行動が後世に伝わっている。これは彼の内面の芸術運動の動きの必然性からくるものであり、逸気に伴い感興に任せて作画することは大雅が筆を執る本能的理由でもある。この自由さと大らかさが大雅作品を一層魅力的なものにしている。

多彩な作品を通して、時空を超えた大雅の自由な旅に想いを馳せることのできた心躍る展覧会であった。

● 3 F-1 書跡

【紺紙経―輝く仏の言葉―】

平成31年1月2日(水)～2月3日(日)

*12月18日(火)～24日(月・祝)は休室。

● 3 F-2 考古

【中国と日本の銅鏡】

平成31年1月2日(水)～3月10日(日)

*12月18日(火)～24日(月・祝)は休室。

● 2 F-1 絵巻

【神々の伝説―北野・厳島―】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

● 2 F-2 仏画

【十二天屏風の世界】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

● 2 F-3 中世絵画

【禅宗の人物画】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

● 2 F-4 近世絵画

【渡辺始興の絵画】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

● 2 F-5

【特集展示 京の冬景色】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

● 1 F-1 彫刻

【日本の彫刻／中国の仏像】

12月18日(火)～平成31年3月17日(日)

● 1 F-2 特別展示室

【特集展示 美麗を極める中国陶磁】

12月18日(火)～平成31年2月3日(日)

● 1 F-4 染織

【染めと織りの文様―段・縞・格子―】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

● 1 F-5

【新春特集展示 亥づくし】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

● 1 F-6 漆工

【うるしの酒器】

12月18日(火)～平成31年1月27日(日)

「京都国立博物館だより」
これまでの歩み



※1



※2



※3



※4

「京都国立博物館だより」は、昭和41年(1966)3月30日に1号が発行されました(※1)。右上には「ご招待 このたよりを門と陳列館受付にお示しください」との記載があり、博物館だよりを持参すると無料で観覧することが出来たようです。どれくらいの方がこの博物館だよりを手にご来館されたのかわかりませんが、きっと展示を楽しまれたことでしょう。

当初は不定期で発行されていた博物館だよりが、現在のように3か月ごとの定期刊行となるのは新陳列館の竣工後しばらく経った昭和46年(1971)の11号からです(※2)。この時開催の特別展は「ソ連所蔵名品百選展」。観覧料は大人350円ですから、時代の変化を感じます。

発行時よりB5サイズだった博物館だよりの体裁が変わるのは平成6年(1994)の101号です(※3)。ひとまわり大きいA4サイズとなり、デザインも一新され、「よみもの」というエッセイの連載も始まりました。初回の執筆を担当した藤澤令夫元館長の「この101号から気持ちをあらためて、新しく出発することにしたのである。内容もそれだけ情報量を豊かにしていくつ

もりなので、これまでにまもって御活用と御愛読をお願いします。」という言葉には、身が引き締まります。平成16年(2004)4月発行の142号からはカラー化にあたり再びデザインを一新(※4)、その後何度か体裁を替えて今の博物館だよりとなりました。

特別展観覧者数

TOP 10



200号記念ということで、これまでに開催された特別展の観覧者数トップ10をまとめてみました。すべてご覧になっている方はさすがです!

1位はやはり昨年開催された開館120周年記念特別展「国宝」。これまでに開催された国宝展はすべてランクインしていますので、いかに「国宝」の人気が高いかわかります。今年の秋は京博初の刀剣特別展「京のかたな」。ぜひランクインしてほしいです。

*昭和42年(1967)以降開催の特別展についてのランキングです。

トップ10には入っていませんが、平成12年度開催の「若冲」、平成14年開催の「雪舟」、平成15年度開催の「アートオブスターウォーズ」なども多くのお客様にご来館いただき、話題の展覧会となりました。

山本研究員担当
展覧会一覧

開催年	展覧会名	入館者数(単位:人)
平成 8 年度	室町時代の狩野派—画壇制覇への道—	32,049
平成 14 年度	没後500年 雪舟	219,579
平成 16 年度	亀山法皇700年御忌記念 南禅寺	62,665
平成 19 年度	狩野永徳	230,656
平成 22 年度	没後400年 長谷川等伯	244,347
平成 27 年度	桃山時代の狩野派—永徳の後継者たち—	118,186
平成 29 年度	海北友松	164,900
		計 1,072,382

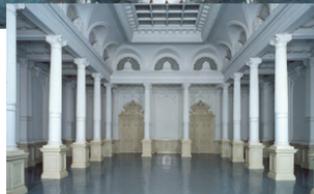
第25回 国際博物館会議 (ICOM) 京都大会まであと一年!

3年に1回、世界中の博物館関係者3000人以上が一堂に会する国際博物館会議 (ICOM) 大会が、いよいよ一年後に迫ってきました。ICOM京都大会は、2019年9月1~7日に国立京都国際会館をメイン会場に開催され、最終日の閉会式とフェアウェル・パーティーは、京都国立博物館が会場となります。

ICOMには、専門分野・機能別に30の国際委員会があり、「文化をつなぐミュージアム—伝統を未来へ」の統一テーマの下、様々な学術的・実践的な研究発表や意見交換が行われます。9月2日に開会式、2~4日には著名人による基調講演やパネル・ディスカッションがあり、関連業者・団体等による展示会も開催されます。また、市内では様々なイベントが開催され、京都全体が博物館のようになりますので、お楽しみに! 参加登録費やプログラム等、詳細は以下のホームページをご覧ください。
<http://icom-kyoto-2019.org/>



明治古都館のいま



明治古都館(重要文化財・旧帝国京都博物館本館)では、近年玄関ホール・中央ホールを中心に天井部小屋裏補強と天井パネル飛散防止対策を実施し、使用にあたっての安全性を高めました。将来的な地震・耐震性能向上を目的とし、平成30年度は建物周囲の埋蔵文化財発掘調査を進めています。

特別展「京のかたな」の開催期間中には、中央ホールで「刀剣乱舞-ONLINE-」コラボ刀剣男士の等身大パネルなどを展示します。

この機会に、通常は公開していない明治古都館の内部もあわせてお楽しみください。

山本英男 特任研究員(前学芸部長) ◆
インタビュー

INTERVIEW

数々の特別展を担当されましたが、印象に残っている展覧会はありますか?

山本…一番ドキドキハラハラしたのは狩野永徳展かもしれません。京博には永徳作品がほとんどなく、展覧会として形にできるのかと心配されました。絶対に外せない聚光院「花鳥図襖」、上杉本「洛中洛外図屏風」、「唐獅子図屏風」、「檜図屏風」については、企画が決まってからすぐに作品をお借りするための準備を始めました。

— 永徳展では無事にその四つの作品が展示されましたね。

山本…これには本当に京博にいたことのありがたさを感じますね。地方の美術館にいた私の経験で申し上げるのですが、地方では集めることができる作品が限られてくるんです。でも、京博で展覧会をするということになると、よほど特殊な事情がないかぎり作品を貸していただける。それは京博一〇〇年の伝統や信用があるからこそであり、自分が偉いではなく京博が偉いんだ、と今も強く思っています。だから、自分が担当した展覧会のなかで、「この作品が出品できないから無理だ」ということがほとんどなかったというのは幸せなことだったと思います。

— 展覧会を企画する醍醐味は?

山本…実は、私が担当した展覧会は絵師や流派に焦点を絞った企画が多いんです。それはなぜかというと、こんな風にのし上がっていき最後は…と、その人の一生を追っていくことに興味をそえられるんですね。もの凄くストーリーを感じています。展示プランも、そういったストーリーを感じていただけるように、といつも考えています。

それには京博の先輩研究員からの「ただ作品を並べて展示するのではダメだ、一部屋ごとに個性が感じられるよう、お客様を飽きさせない展示にするように」という教えが頭にあるからかもしれません。

— 苦労した展覧会はありますか?

山本…やっぱりいだなあ、と思ったのは海北友松展。狩野派だったら風俗画や肖像画、絵巻、障壁画など話題も豊富で変化をつけることができるけど、友松の作品は水墨画が中心、画題もそれほど多くない。とにかく、友松の一生をなぞるように展示室を構成しながら、途中で金碧の屏風を入れたり、雰囲気を変えるためにディスプレイを工夫したりしました。平成知新館は次の展示室が見えないので、いろんな工夫をあわせてうまく調整できたかなと思います。

— 最後に、日本美術に興味を持ったきっかけを教えてください。

山本…私が小学生のころ、切手収集が流行っていたんですね。いろんなシリーズがありました。その中で気に入ったのが雪舟の「秋冬山水図」の冬景。渋くていいなあと思ったのか、今なら画像をそのままプリントするようなところ、一所懸命年賀はがきに模写していました。「秋冬山水図」ってがきにぴったりサイズのね。今にして思えばそれが水墨画に興味をもったはじめかもしれないなあ。

— それは微笑ましいエピソードですね。では本日はインタビューにお付き

合いくださいありがとうございました。山本…ありがとうございました。



特別展「京のかたな」記念講演会

10月6日(土)「京のかたなⅠ—古刀—」

京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦

10月13日(土)「京鍛冶の黄金期—粟田口から来派へ—」

ふくやま美術館館長 原田一敏氏

10月20日(土)「日本刀の源流—日本の原始古代刀—」

京都国立博物館主任研究員 古谷毅

10月27日(土)「京のかたなⅡ—新刀—」

京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦

11月3日(土)対談：『京のかたな』総まとめ

美術ライター/永青文庫副館長 橋本麻里氏、京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦

11月10日(土)「合戦絵巻と武器・武具の研究」

京都国立博物館研究員 井並林太郎

※平成知新館 講堂にて、13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料
(ただし当日の「京のかたな」展観覧券が必要)。

※当日11時より、平成知新館1階にて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。お並びの状況により配布開始時間を早める場合があります。

土曜講座

12月22日「慶長小袖—転換期のきものデザイン—」

京都国立博物館企画・工芸室長 山川曉

※平成知新館 講堂にて、13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料
(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日12時より、平成知新館1階にて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

イベント

《京都・らくご博物館【秋】～錦秋寄席～vol.50》

日時：平成30年11月9日(金)18時30分開演(18時開場)

会場：平成知新館 講堂

出演：桂弥っこ 桂ひろば 桂団朝 <中入> 桂吉弥 笑福亭仁智

入場料：3100円(キャンパスメンバーズは学生証提示により2500円)

全席指定、特別展「京のかたな」団体割引引換券付

※チケットご希望の方は電話、またはWEBよりお申し込みください。お電話/博物館事業推進係075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付 ※祝日は除く) WEB/<https://www.kyohaku.go.jp/>らくご博物館【秋】申し込み画面

《留学生の日》

京都国立博物館では、留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。本年度は11月3日(土・祝)に実施します。特別展「京のかたな」を大学生団体料金(1,000円)でご覧いただけるほか、入館時に当館公式キャラクター・トラリんのノベルティ・セットをプレゼントいたします。留学生の方は、この機会にぜひご来館ください(要学生証提示)。

これからの展覧会

◆特集展示 初公開！天皇の即位図

平成31年1月30日(水)～3月10日(日)

◆特別企画 日中平和友好条約締結40周年記念

中国近代絵画の巨匠 齊白石

平成31年1月30日(水)～3月17日(日)

◆特集展示 雛まつりと人形

平成31年2月13日(水)～3月17日(日)

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」

10月2日(火)～12月9日(日)

特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」

10月2日(火)～12月9日(日)

【奈良国立博物館】

特別展「第70回 正倉院展」

10月27日(土)～11月12日(月)

【九州国立博物館】

特別展「オークラコレクション 古今の美を収集した、

大倉父子の夢」10月2日(火)～12月9日(日)

名品ギャラリーの休止および部分開館の予定

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止、または部分開館しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：11月27日(火)～12月16日(日)

庭園のみ開館：11月27日(火)～12月16日(日)

名品ギャラリー部分開館：12月18日(火)～12月24日(月・祝)

2F、1F展示室(3Fは閉室)

ご利用案内

【開館時間】

〈9月29日～11月25日〉9:30～18:00 ※金・土曜日は20:00まで開館

〈11月27日～12月16日〉9:30～17:00

〈12月18日～3月17日〉9:30～17:00 ※金・土曜日は20:00まで開館

*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】

【特別展「京のかたな」】

一般1500円(1300円) 大学生1200円(1000円) 高校生700円(500円)

* ()内は団体20名以上。中学生以下、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

【庭園のみ開館期間】(11月27日～12月16日)

一般260円(210円)(庭園ガイド冊子付き)* ()内は団体20名以上。

大学生以下、満70歳以上、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

【名品ギャラリー】(12月18日～3月17日)

一般520円(410円)、大学生260円(210円)* ()内は団体20名以上。

高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

【休館日】

月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

9月28日、12月25日～2019年1月1日

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂前下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都市女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

「博物館だより」を郵送ご希望の方は返信用封筒(角2封筒は120円長3封筒は92円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。

【ミュージアムパートナー】 ※2018年10月1日現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

株式会社日本香堂/有限会社竹内美術店/土屋和之/

株式会社聖護院ハッ橋総本店/彌樂自動車株式会社/

学校法人二本松学院

【キャンパスメンバーズ】

会員である大学や専修学校の学生および教員の皆様に、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などを提供しています。

学校法人 瓜生山学園/大阪大学/大谷大学/大手前大学/

学校法人 関西大学/学校法人 関西学院/京都大学/

京都外国語大学・京都外国語大学短期大学/京都教育大学/

京都工芸繊維大学/学校法人 京都産業大学/京都女子大学/

京都市立芸術大学/京都精華大学/京都橘大学/

近畿大学文芸学部総合文化研究科/嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学/

四天王寺大学人文社会学部/京都府立大学/就実大学人文科学部/

成安造形大学/帝塚山大学/学校法人 同志社/奈良大学/

奈良女子大学/奈良先端科学技術大学院大学/

学校法人 二本松学院/花園大学/佛光大学/学校法人 立命館/

龍谷大学

表紙：国宝 太刀 銘則国 京都国立博物館/重要文化財 騎馬武者像(部分) 京都国立博物館/祇園祭礼図屏風(部分) 京都国立博物館/素三彩果文盤 大清康熙年製銘(部分) 京都国立博物館/粉彩松鹿図瓶 京都国立博物館/雪中三獣図襖(部分) 森祖仙筆 京都・廣誠院/重要文化財 阿国歌舞伎図屏風(部分) 京都国立博物館

